

視察報告書

日時：	令和元年 5 月 7 日（水曜） 14：00～16：10
場所：	宇都宮市役所（栃木県宇都宮市）
面会者：	子ども部 子ども未来課 課長 坂井様、課長補佐 亀澤様
参加者：	植松泰之、深田龍、赤塚かおり
内容：	<p><input type="checkbox"/>過去 3 年間の待機児童数の推移について 平成 28 年度 120%以上は受け入れ枠を抑える。待機児童数が増えた。 28・29 年度：新設で整備を行い 300 人以上の確保 30 年度：新設で整備を行い 120 人以上の確保</p> <p>国の定義に入らない方を「保留者」と呼んでいる 4 月 300～400 人で推移（1 歳児が半分以上） 10 月になるともう少し増える 3～5 歳児については連携施設等でも対応しているため、保留者は出ない。</p> <p><input type="checkbox"/>認定こども園への移行状況について 平成 26 年から整備がスタートし民間の幼稚園がこども園に移行している（現状 19 園） 平成 10 年代から三位一体の改革のなかで、基幹園を定め公立を民営化してきた背景がある。</p> <p>【現状の保育園・幼稚園数】 公立：10 園、民間：140 園、（内、こども園：19 園）、民間幼稚園：30 弱</p> <p><input type="checkbox"/>保育士確保の取組み</p> <ul style="list-style-type: none">・ショッピングモールにおける情報提供および相談の実施・バスツアーを高校生対象に実施・人材確保費：月々 1,000 円上がる。（最大 25 年上限）民間に補助する。・潜在保育士の悩み：育休中が理由の方が多く印象だった。 勤務時間についての相談が多かった。 こどもの保育料を半分にする。 <p>住宅地が近くにある保育園は人気が高い傾向にある。利便性や生活環境によって保育園を選ばれるご家庭が多い。 男子の方が多く都市。女性は都会へ出ていっているため U ターン施策を行っているところ。 宇都宮市は高所得者が多い。</p>

保育の質の担保

- ・公開保育を平成 30 年度から実施。今年度からは民間保育園も受け入れている。
- ・巡回を行っている上での課題は巡回に対する理解がない施設に対し、巡回の目的や意義を理解していただくことも行っている。

【質問】

① 食べ物アレルギーに対する指導はされたのか？

➡市独自のガイドラインを作成。幼保・小学校などで提出書類の様式が様々だった。フォーマットや対応を一律同じものにした。

② 外国人に対しての対応は？

➡ケースとしては少ないので、できる範囲で対応している。

③ 研修はどんな時間に実施しているのか？

➡研修は勤務時間中に実施している。土曜や日曜、夜間に設定する場合もあるが、ほとんどは勤務時間に実施。

④ 研修の頻度は？

➡月 1 回くらいで行っている。

⑤ 民間と公立の違いは？

➡特色を持つ民間はなにに重きをおくかでスタイルが変わる。

⑥ 研修や巡回の効果の測り方は？

➡苦情が多い園が減ってきていると聞くと、それが効果と捉えている。（現場からの声の変化が起きる）

⑦ 未就学児がいる世帯へのサービス・現物支給について、子ども総合相談の対応はどのようにしているのか？

➡こども家庭科と電話対応をしている。相談時間は 8 : 30～19 : 00。

ほとんどが電話による相談。相談内容について、なにが多いかは特定できない。母子手帳や広報誌にも載せている。

⑧ 平成 29 年度 902 件は何人で対応しているのか？

➡専門の嘱託員 2 名と担当課の 6 名の計 8 名で対応している。

子ども家庭総合支援拠点の設置について

待っても来ないので、主体的に家庭に関わっていく。

栃木県には 3 つの児童相談所があり、宇都宮では多くの近隣市町もみている。

・関係機関とは？

警察、学校、病院、保育園、幼稚園、地域（民生委員）、障害施設、

行政：保健所、母子保健の担当課、教育委員会（社協は関わっていない）

	<p>平成 28 年度は、県との協議を経て、どういふ案件を落とすのか話し合ってきた。</p> <p>受け皿は市となるので、児童相談所では具体的な方策を持っていない中で、市がその方策の提案者であり、実施者でないと問題は解決していかない。</p> <p>庁舎のガラスにオレンジリボンを貼って PR。（テレビにも取り上げてもらった）</p>
<p>所感：</p>	<p>宇都宮市は、日経 DUAL「共働き子育てしやすい街ランキング 2018」で全国総合 1 位（68 点）を獲得した、今最も注目される自治体の一つである。ランキングというからには勿論、評価基準が幾つか設定されている。「認可保育園に入りたい人が入れているか」「病児保育施設の充実度は」「学童保育は充実しているか」「保育士確保へ自治体独自の取組みがあるか」など 13 項目である。</p> <p>実は松阪市も 19 位（52 点、※東京都を除く）にランク付けされており、このことから外部組織からの一定の評価をもらっているとも言える。</p> <p>しかし、当然、子供を持つ親にとってはまだまだ満足度のいふような政策が実施されているとは言えず、それは宇都宮市との点差として如実に表れている。</p> <p>政策の事業名だけを見ると、宇都宮市も松阪市も同じような取組みをしているのだが、一体、どこに違いがあるのか。今回それを考察する視察であった。明確に言えることは、宇都宮市は現状を冷静に分析し、課題に向けての徹底した取組みを行っているということである。</p> <p>例えば、保育士確保への宇都宮市独自の取組みなどは顕著な例である。松阪市も含め、この自治体も保育士の確保には難渋している。宇都宮市は、職員自らショッピングセンターに向き、子供連れの母親に直接声を掛け、保育士として従事するための情報を提供しているというのだ。想像以上に潜在保育士はいるとし、「子供も成長し、そろそろ保育士として仕事を再開したいと思っていた」という母親は存外多いという。このような声掛けをきっかけに復職に結びついたというケースは決して珍しくない。「就職希望者を待つ」という従来の方法に行き詰っている現状を打破する方法はどのようにまだまだあるということだ。</p> <p>上記の調査内容のように松阪市と事業名は似通ってはいても中身は違ふという政策がいくつかあった。宇都宮市のものがそのまま松阪市に置き換えられるわけではないが、今後の政策を考えていく上で、検証するに値するものであることは間違いないであろう。</p>

日時：	令和元年 5 月 8 日（木曜） 09：55～12：05
場所：	柏市役所（千葉県柏市）
面会者：	子育て支援課 今泉氏、篠原様 こども福祉課 能登氏、佐久間様 保育整備課 清水様 保育運営課 渡辺様、野口様、大山様、栗原様
参加者：	植松泰之、深田龍、赤塚かおり
内容：	<p><input type="checkbox"/> 過去 3 年間の待機児童数の推移について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園保留者 平成 29 年から 31 にかけては増加。年特定の園を希望している方が多いが、この状況を受けて、新設等で 7 園を増設し、利用定員を 421 名増加した。 年の途中における入所希望者は保育ルームに入所いただいている（企業主導型含） <p><input type="checkbox"/> 認定こども園への移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園への移行は最優先で考えており、平成 28 年度から公募している状況 ・市内には全部で 13 園が平成 31 年度現在、存在している ・関東では少ない傾向の中、柏市には多い ・移行する上での課題には休みがなくなり職員に負担がかかることを挙げている <p><input type="checkbox"/> 保育士の確保・保育の質に関する取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処遇改善事業 県と協力し、最大 43,000 円と 82,000 円の家賃補助を行っている。 ・合同企業説明会 市の単独事業で平成 26 年度から行い、年に 2 回の開催。出展ブースも年々増え、来場者数も最初の 96 名から、平成 30 年度は 264 名まで増えた。 ・復職支援講習会 復職に向けた講習会の実施。不安を軽減することが目的。 ・臨時職員の確保 賃金単価を 3 年連続で引き上げたが、近隣市とようやく同水準になった。（柏市 1,300 円/時間） <p><input type="checkbox"/> 子ども家庭総合支援拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点は施設ではなく、機能をとって、従来の過程相談児童室の拡充で拠点を運営している。 ・体制：地区担当ケースワーカー 6 名、心理職 1 名、家庭児童相談員 6 名、副参事 1 名、担当リーダー 1 名の計 15 名 ・要保護児童対策地域協議会の活用が進んできており、実務者会議は毎月の開催。

□ひとり親家庭への支援について

平成 28 年児童福祉法の改正 中核市特別区に設置

児童相談所を設置するための取組みをしてきた。

今年度からどこに、どんな児童相談所を設置するか協議している状況。

【質問】

① 保育士の合同企業説明会の広報について、ポスティングをしているということだが、どのように行っているのか？

➡業者へ依頼している。新聞へ折り込みだと手してもらえない可能性がある。ポスティングを始めてから来場者は増えた。

・ポスティングの予算は？

➡40万部の配付で200～300万円

・自治会へのチラシ配付は行っているのか？

➡協力いただく自治会さんにはポスティングと重複してでも配付している。

② 幼保連携型こども園への移行を優先的に行っているなかで人材育成をどうしているのか？

➡仮に8月に公募をしても一年半後の施設整備。その間に、必要な資格取得をお願いしている。幼稚園教諭・保育士資格の片方しか持っていない方は少ない。低年齢な保育が心配な方には公立の保育で受け入れて研修を行っている。

③ 復職支援の課題は？

➡心理的不安が多い。不安を取り除くため、現場職員からの声を大事にしている。

資格を取って現場を経験していない方には、現場の職員さんの声を聞いて頂いて、それらを大事にしたら不安感をの取り除けていることをお聞きしている。

・勤務時間の拘束や給与の点のPRは？

➡自分のこどもを大事にしたい方でも、条件に合った仕事を紹介している。

④ こどもの学習支援を民間へ委託しているというが、なぜなのか？

➡ひとり親の学習支援の前に、生活保護家庭の学習支援をしていた。その時は、教員OBで対応していたが、こどもの参加者が増えなかった。違う第三者区分の方が運営していただく方が参加してもらいやすいと考えた。家庭背景にかかわらず、普通に塾に通える形と変わらないので、その点では好評を得ている。

・一般家庭の反応は？

➡広報では募集していない。対象者は限定されているため、直接周知をしている。

・ショートステイの利用者はどんな方が多いのか？

➡冠婚葬祭やリフレッシュをしたい方など。

所感：	<p>前視察先の宇都宮市もそうであったが、子育て支援政策に対し、高い評価を受けている自治体はどれもその取り組み方が決して画一的ではなく、柏市も例外ではない。</p> <p>児童扶養手当等受給世帯を対象とした学習支援事業では、元教員が携わっていたものを今は民間の個別指導塾に委託していたり、一時保育サービスの中でショートステイ（短期入所）を実施していたり（この事業は児童養護施設を利用する）している。</p> <p>中でも宇都宮市と同様、柏市も保育士確保が大いに求められる状況下、保育士募集情報チラシを各戸にポスティングしている。広報や地域の新聞への広告掲載では該当者に十分届かない場合が多いのだが、ポスティングすることで目に留まりやすいというのだ。</p> <p>また、潜在保育士の掘り起こし事業として実施している復職支援講習会では、実際に復職した人に会場まで来てもらい、アドバイスを兼ねて相談にも乗っている。就労可能な時間に制約がある場合には企業内保育所への紹介や推薦も行っている。決して賃金の多寡だけでは測り得ない各人の事情にしっかりと寄り添ったアプローチを心掛けているという。</p> <p>以上のように今回の視察先である宇都宮市との比較のために保育士確保のための事業を一例として引き合いに出したが、柏市の事業は汎用性があり、より実践的でもある。</p> <p>松阪市では来年度から新たな子ども・子育て支援計画が始まる。それに向けての事業の見直しや再構築は急務である。柏市のような先進事例を積極的に検証しながら、松阪市の子育て環境に見合った支援事業を引き続き考えていきたい。</p>
-----	--